

力として、現代社会に不可欠な能力となっています。

それは、メディアが一部の権力によって独占されたり、特定な価値を持つだけが情報の送り手になったりすることを防ぐ力です。それに対抗できる知識や発信力をもった「市民」がいることが、デモクラシーのためには大変重要なこととなっているのです。

ただ、一般的にはまだその重要性の認識は高まっていません。例えば、学校教育では、カナダのオンタリオ州では早くから国語教育に組み込まれました。日本では2002～3年に「情報とコンピュータ」が中学技術科に、「情報」が高校の必修科目になっただけです。そこには「メディアリテラシー」の概念はなく、その観点は各学校の教師の取り組みに一任されている状況です。

2010年代の情報提供側の性バランスも図2のようになっており、情報の内容に影響を与えていることに着眼し、課題となっています。

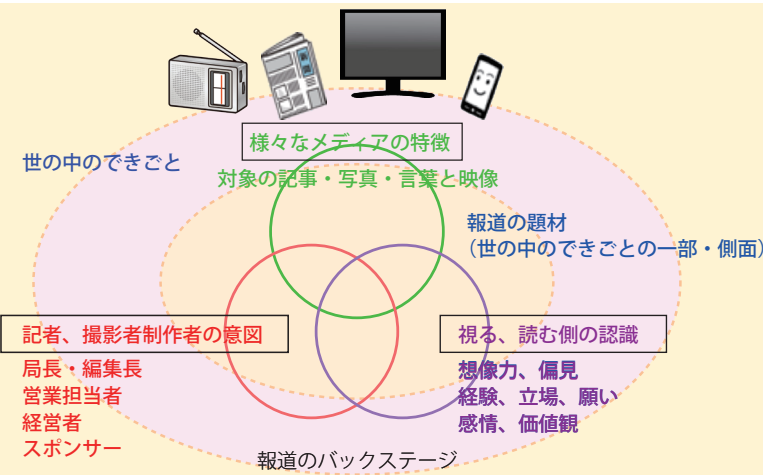
ジェンダーの視点とメディアリテラシー

では「ジェンダー」とはなんでしょう。これは女性と男性との間にある肉体的差異に基づいて、女性を社会の中心から排除し、地位を周縁化する社会的組織(国家・家族・法・経済など)と文化的組織(宗教・教育・道徳・学問・芸術など) および、それによって生み出される様々な社会的権力関係です。つまり、女性と男性の自然的(=生物学的)な性差以上に、強力な制度と文化によって補強され、性役割や性差別が保持されてきた(いる)という

図2 報道メディアの状況

立場	対象地域	男性	女性
報道従事者	世界 522 機関 約 17 万人中	65%	35%
	アジア・太平洋地域	80%	20%
	日本 8 社 1 万 3 千人	85%	15%
上級管理職	世界	62.3%	38.7%
	アジア太平洋地域	87%	13%
	日本	95.2%	4.8%
	南アフリカ共和国	20.1%	79.5%

I W M F 2011 年調査報告書より



報道ってほんまに?

「報道」というと、あるできごとが事実としてそのまま客観的に伝えられている、と考えがちです。しかし、そこにはいくつもの人の手、ツールの特性の影響があります。

まずジェンダー(*)の視点では、報道は、最近は徐々に変わっているとはいえ、編集・編成、記者、撮影者など男性の多い組織で作られています。さらに経営者やスポンサー等の意図の中で、報道の題材や表現を選びます。

また、新聞の活字、テレビの映像、誰でも投稿やシェアのできるインターネット等、メディアのツールの特徴により、同じできごとでも伝わり方は違います。

そして、報道を見て読む受け手の側も、それぞれの価値観、その時の感情、先入観や偏見、想像力、知識等、各々別々の思いをもって同じ報道に接します。

多様で多面的なメッセージをもつ事実の一面だけが「客観的な事実」のように発信されがちであることを、受け手の私たちも意識し、本当に必要な情報を読み解く必要があるのではないのでしょうか。

(桑山)
*生物学的性別ではなく、歴史的・社会的・文化的性別に作られた性差のこと。

・特定の地名、場所名を出さない
(GPS機能をオフにして画像を撮る)

・画像掲載は許可を取ってから
・過去の投稿を再チェックする
これらのことに気をつけ、個人情報報の取り扱いには注意が必要です。

② リベンジポルノ

これは相手の性的な画像や動画を同意なしに公開・拡散することです。撮らせる側も撮る側も、画像流出のリスクを十分に考え、行動しなくてはなりません。相手との信頼関係を裏切り、弱みを握るような行為はデートDV(交際相手からの暴力)につながる

犯罪行為であり、2014年「私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律(リベンジポルノ防止法)」が施行されています。

③ 性情報の誤解

現在、ネット上に溢れる性情報は正しいものばかりではなく、間違った認識から男女間でトラブルに発展しています。

学校や家庭における性教育とは違い、商品として売れることが目的であり、男性に都合の良いように偏ったジェンダー意識によって作り出されています。ネット上の性情報にはこのような「作り手の意図」があることを忘れてはいけません。

被害にあってしまったら

・画像(スクリーンショット)や、印刷等で証拠を保存する

ネット社会でなかった時代に想いを馳せました。図書館での調べ物、手紙のやり取り、時間はかかるけれど価値あるものだった気がします。(成田)